

地域の絆を大切に

下呂市下呂単位民児協

下呂単位民児協では、隔月に定例会を開催し、その間の月は各地域において地区例会を開催しています。

旧下呂町は昭和30年に竹原村、上原村、中原村と合併し下呂町が誕生しました。

現在の人口は10,683人、世帯数は4,743世帯(令和7年4月1日現在)で、面積の約9割が森林です。

中心地は商店や旅館が多く、中心地から離れた所では製造業や第一次産業に従事し、近隣の市や町へ働きに出る人が多いことが特徴です。

そのため、困りごとや課題も違いがあり、地域の絆を強めるためにも、地区例会に重きを置いています。

下呂地区は、他の地区に比べ人口が多いのが特徴です。高齢化率は35.6%と、他の地区に比べ比較的低いですが、他県や他市からの移住者が多く、自治会に未加入の世帯も少なくありません。そのため、地域住民の内情を把握するのが難しい状況です。

下呂地区の民生委員・児童委員は定職を持ちながら活動している人が多く、地区例会への出席率が思うように上がらないのが現状です。その様な中で、定例会は主に学習の場、地区例会は親睦の場として活用しています。高齢者向けサロンでも楽しめるレクリエーションの体験や、懇談会を開催し、深刻な問題も増えつつある



ラダーゲッター体験(下呂地区例会にて)

中で、活動について話し合える場を提供しています。話すことで少しでも民生委員・児童委員の心理的負担の軽減にもつながることを期待し地区例会を計画しています。

竹原地区は、他の地域と比べて子どもの人口割合が高いのが特徴です。地区内にこども園、小・中学校があり子育て世代にとって住みやすい環境が整っています。

5月の地区例会では、地域の小・中学校を訪問し、全年の授業参観を行いました。その後、先生方との話し合いの場を設け、子どもたちの様子を共有しました。子どもたちが活発に授業に参加する様子などを見ることができ、また、学校の教育活動への理解を深めることができました。学校との連携強化により円滑な情報共有ができ、子どもたちの安全・安心につながられる活動に直結する貴重な機会となりました。



校長先生からの学校方針の説明(竹原地区例会小学校訪問)

上原地区は、今年度より集落支援員(過疎地域などの集落が抱える課題解決や活性化を支援するために、下呂市が任用した人材)に就任された方を地区例会に招き、民生委員・児童委員との連携や活動についての情報交換を行いました。集落支援員が配置されるほど、上原地区には住民の生活を支える上で多くの課題があります。

今回の情報交換会では、民生委員・児童委員と集落支援員がそれぞれの役割や活動内容を共有し、地域の現状や課題への認識を深めることができました。今後は、両者が密に連携し、地域住民のニーズをきめ細かく把握しながら、買い物支援や見守り活動、地域交流の促進など、具体的な支援策を協力して進めていくことが重要です。

中原地区は、4地区の中でもっとも高齢化が進んでおり、高齢化率52.2%と、住民の半数以上が高齢者という地域です。そのため、困りごとや課題を抱えている家庭も多くあります。年度初めの地区例会では、区長、駐在員、郵便局長、社会福祉協議会、包括支援センター、ケアマネジャーなど、地域に関わる関係者が集まり、情報共有と活動報告の会議を開催しました。顔合わせの機会を持つことで、関係機関とも連絡が取りやすくなり、協力体制の構築につながっています。

そして、地区内では、サロンや女子会を開催している地域や、郵便局でお茶会を開催するなど、それぞれの地域で交流の場を設け、住民同士の関わりを大切にしています。民生委員・児童委員も関係機関と連携し、精力的に活動し続けています。



高齢者サロン『さくら会』に参加(中原地区例会にて)

下呂市が目指す「未来につなぐ ふるさとづくり」とともに、私たちもこれまでと変わりなく、身近な人や地域に目を向けながら活動していきたいと思えます。